

芸術鑑賞会に行ってきました



高校1・2年生は6月23日（金）に日生劇場でプッチーニのオペラ「ラ・ボエーム」を鑑賞しました。フランスのパリに住む若者たちの夢や恋、友情を描いた甘く切ない青春物語。行事ノートから芸術鑑賞会の感想をご紹介します。

人生で初めてオペラというものを鑑賞した。オペラといえばイタリア語しかないものだと思っていて、内容が理解できるか最初は不安であったが、今回は日本語であり、さらに字幕もついており、とてもわかりやすく理解することができた。そして、私のクラスは一番前の席だったので、舞台がとても近く、キャストの方の細かい動きや表情までも見ることもできた。

第2幕では、登場人物たちがイブの日に街に繰り出すところで、たくさんの人や子供や楽器を吹く軍楽隊、そして主要人物の一人であるムゼッタも登場する。ここではたくさんの人々と子供による合唱が行われていて、見ていて一番楽しいシーンであったし、子供たちもとても可愛かった。

オペラは総合芸術だと事前学習のビデオでも強調されていたが、本当にその通りで、女性のドレスや立派な装置、アリアや合唱などの歌、オーケストラの音楽、どれをとっても圧倒されるほど素敵だった。

この5年間で人形浄瑠璃、バレエ、オペラと見てきたが、今年が一番楽しめたと思う。もちろん日本語でストーリーがよく分かったということもあったが、たくさん見どころがあるオペラは飽きることなく満喫できた。

個人的にこうしたものを見られる機会はそうそうないし、もしかしたらもう2度とないかもしれないが、またどこかで機会があれば今度はイタリア語版も聴いてみたいと思う。